

## 第41回CCOP年次総会における筑波野外巡検

笹田 政 克<sup>1)</sup>

CCOP総会の巡検は、その国の地質を見学するばかりでなく、あわせてその国の文化にも触れることのできる機会であり、各国からの参加者にとっては楽しみな行事である。筆者がこれまで参加したCCOP総会では、96年の上海総会の時の蘇州から太湖にかけての揚子江河口域、97年韓国テジョン総会の時の慶州盆地と古墳群、98年フィリピンスービック総会の時のピナツポ火山の泥流に覆われた町村、99年ハノイ総会の時のハロン湾の海上カルスト等々、それぞれ懐かしい思い出である。

今回のつくば総会では、筑波山から稲田にかけての花崗岩と、その沿道で接することのできる日本文化をテーマにして、1日の巡検を行った(Sasada and Nishioka, 2004)。2004年11月18日、60名の参加者が大型バス2台に分乗し、はじめに向かった場所は筑波山の裏手にある西光院である。西光院は平安時代初期に開山された名刹で、急斜面に懸造りされた本堂からの八郷盆地の眺めは素晴ら

しく、関東の清水寺とも言われている(写真1)。ここを訪れたのは、実はこのすぐ近くの別の斜面に、天然記念物に指定された小判石と呼ばれる球状岩があるからであった。杉木立の中、小道を下ること数分で、岩清水のしたたる苔むした露頭の前にでる。表面が風化しているため一見どんな石か分かりにくいのが、よく見ると表面に湾曲した窪みがいくつも並んでいる。当日は球状岩がどのような石か理解していたくため、片面を研磨した標本(写真2)を持参して、世界的にも珍しい堇青石等からなる球状岩について説明した。参加者は天然記念物で



写真1 西光院を見学するCCOP巡検参加者  
(写真撮影 西岡芳晴)。



写真2 球状岩の研磨片(宮崎ほか, 1996)。

1) 産総研 深部地質環境研究センター

キーワード: 球状岩, 稲田, 花崗岩, 石切り場, 石の百年館



写真3 中野組石材工業の石切り場(右下)を見学するCCOP巡検参加者(写真撮影 西岡芳晴)。

採取が禁止されている岩石を、標本だといって見せられたのを訝しく思っていたようであるが、実は地質標本館には、昭和12年に天然記念物に指定される前に、この露頭周辺から採取された球状岩のサンプルが多数保管されており、美しく研磨された球状岩の断面は、地質標本館1階の「郷土の地質」コーナーでも見ることができる。

さて、名刹と小判石の見学を終えた一行は、再びバスに乗り稲田へと向かった。まず訪れたのは稲田で一番大きな中野組石材工業株式会社の石切り場である。ここでは地下40mの深さまで石の切り出しが行われており、一行は見晴らしのよい場所から大きくくりぬかれた花崗岩の生産現場を見下ろし、石材の切り出しと石材工業の推移について意見を交わした(写真3)。日本の石材工業はバブル期以降減産が続いている。歴史を振り返ると、稲田は水戸線に貨物駅ができた明治30年以降、東京への石材の一大供給地として隆盛を極め、戦後も高度成長期まで、最高裁判所や東京証券取引所等の建物に良質な壁材を提供してきたが、その後海外との労働賃金の格差が大きいため石の切り出しが次第に困難となっていく。筆者が地質図作成のためにこの地域の調査に入っていた20年ほど前は、稲田は国内の石材生産の中心地であるとともに、大きな輸入石材の加工基地でもあった。そして今回しばらくぶりに下見で現場を訪れたとき、大き

な石切り場が閉鎖になっているなどその変貌振りに驚いた。現在は石材の生産のみならず、石材加工も大きく海外に依存している状況にある。日本に輸入する石材は、たとえばインドの赤い花崗岩や、アフリカの黒い斑れい岩も、中国の華南沿岸部で加工したものが日本に入ってくるという状況になっている。現場説明をした後、そんなことを参加者と話しながら、稲田での2番目の見学場所である石の百年館へと移動した。石の百年館は株式会社タカタが、石材生産の百周年を記念して95年に建てた展示資料館で、花崗岩の石切り場百年の歴史を、現場の写真及びそこで実際に使われていた工具の実物を用いて説明している(写真4)。また、ここには世界各国からの美しい石材が数多く展示されて



写真4 株式会社タカタの「石の百年館」展示室(写真撮影 西岡芳晴)。

いたり、かわいい石のお土産品の販売などもあったりして、なかなか離れようとしなない参加者が多かった。

それやこれやで12時をだいぶ回ってしまったが、昼食は稲田の石切り場からバスで10分ほどの笠間工芸の丘でとった。煙が立ち昇る登り窯の脇にあるクラフトルームで昼食を済ませた参加者の中には、笠間焼きをお土産に購入する者も多かった。そして今回の見学会の最後は、笠間稲荷の参道前にある造り酒屋笹目酒造で利き酒を楽しんだ。どうもこれが今回の見学会の中では一番好評であったようで、帰りのバスの中はお酒の話題で盛り上がっていた。また、ちょうど菊祭の時期であったため、笠間稲荷に飾られていた丹精込めて作られた菊には、参加者から驚嘆の声が上がっており、1本の太い茎から幾重にも幾重にも枝分かれをさせ、全体を大きな鉢を伏せたような形に作った見事な

菊を見たヨーロッパからの参加者は、もうこのような入念な仕事はアジアでしかできないですねと話していた。地方都市にはまだ東洋の不思議が残っている。

当日の案内は西岡芳晴、高橋 浩、大久保泰邦、八木淳子と私の5名が担当した。最後になりますが、稲田での見学でお世話になった株式会社タカタの河野雅英さん、中野組石材工業株式会社の川畑真朗さんに厚くお礼を申し上げます。

#### 参 考 文 献

- 宮崎一博・笹田政克・吉岡敏和(1996):真壁地域の地質、地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)、地質調査所、103p.  
Sasada, M. and Nishioka, Y. (2004): Geological Excursion Tsukuba and Inada Areas, Field Guidebook. AIST/GSJ, 8p.

---

SASADA Masakatsu (2005): CCOP Excursion in Tsukuba 2004.

---

<受付:2005年1月12日>